

# 王

音 オウ  
訓 きみ

## 大きな鉞の刃の形

### ● 神の意思を記録する道具

これから何項か「王」に関係した字を紹介したいと思います。その前に「王」と文字の関係について少し書いておきたいのです。それは、この「王」の字が意味する王様の存在が文字の誕生と深く関係しているからです。

今から約三千三百年ほど前、古代中国の殷王朝の武丁という王の時代に文字は生まれました。王が亀の甲羅や牛の骨などに刻んで卜い、神の意思を聞いて、それを記録する際の道具として生まれたのが文字なのです。古代中国社会では、王は神と会話ができることで権威があるという存在でした。

その「王」の字は大きな鉞の頭部の刃の形です。この鉞の刃は武器として持っていたのではなく、王位を示すシンボルとして玉座の前に置かれたのです。これが王位を象徴するゆえに「おう」の意味となりました。この王位を示す鉞の刃には強い霊力があると考えられていました。ですから「王」の字形をふくむ字には鉞の刃の霊力と関係した字が多いのです。

まず「往」です。その古代文字を見てください。今の字形では旁（文字の右側）の「王」の上の「丶」の部分が古代文字では「之」の字形です。「之」は「止」と同形で「足」の意味で、行くことを表しています【↓「歩」【誌】。「イ」（ぎょうにんべん）は十字路の左半分の形で、これも道に行く意味です【↓「行】】。

つまり王の命令で旅に出る際に、王位の象徴である鉞の刃に足を乗せ、その威力を身につけて出かけたのです。そこから「ゆく」意味になりました。

「狂」の古代文字の旁も「往」と同形です。鉞の刃に足を乗せると異常な霊力が与えられて、動物のように「くるう」ことからできた文字です。

「汪」の字は常用漢字ではありませんので理解するだけでいいですが、これまでの延長線上で簡単にわかります。これは王の鉞の刃から受ける霊力の勢いが盛んなように、水が豊かにあるさまを表している字で「ひろい、ゆたか」の意味があります。水がみなぎり溢れることを「横溢」と書き、「汪溢」とも書きます。

### 古代文字



王

殷の王・武丁の時代に文字が約4千数百ほど作られたが、そのうちの約2500文字が今でも読める。3千年以上もずっと使い続けてきたからだ



旧字

往

往



狂



汪

【つながる漢字】

王・往(往)・狂・汪・之(=止)